



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1927, 7(81): 519-521

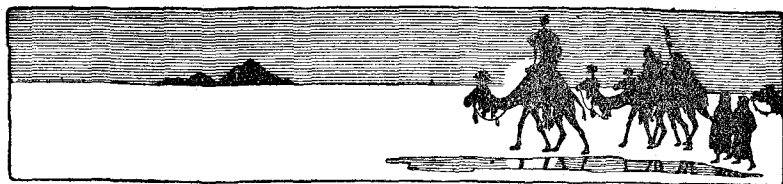
ISSUE DATE:

1927-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161200>

RIGHT:



通 信

倉敷天文臺通信

○第十七回公開日、九月三日下記の講演後、若干の天體を觀望した。前月から寫眞撮影を開始し、本日は會員奥田毅氏が月を撮影された。

九月の天 水野 主事

○第十八回公開日、九月十七日下記の講演があつた。當日は雨天の爲め、觀測は不能。

スペクトルの話 奥田 毅氏

○第十九回公開日、十月一日下記の講演後觀測を開始して二、三のものを觀望したところ、曇つて來たが、老人連中が十名許りも來會されて居て、殘惜しうに見えたので、三日に觀測を行ふことを約して、閉會した。

十月の天 水野 主事

九月三十日木星附近に發見された彗星について 水野 主事

○七月中の參觀人次の如し。

六日 和氣郡藤野村大字吉田有吉貫一氏外二名。

十三日 和歌山縣高野山宗務所古義眞言宗報學部長高橋慈本氏外三十五名。

十八日 岡山測候所技手高崎明氏。

同日 大阪府三島郡高槻尋常高等小學校訓導木村氏外二名。

十九日 岡山市役所衛生課長主事井上憲氏外二名。

同日 久米郡神内村青山壹氏外十名。

○八月中の參觀人次の如し。

十日 兵庫縣加古郡加古小學校訓導大

西はつる氏

十三日 大阪市西淀川區佃町 407 小牧泰二氏。

十四日 倉敷幼稚園岩田艶子氏外十八名。

十五日 倉敷町本町森江昌二氏。

同日 帝國大學生大橋直三氏。

同日 倉敷町若竹園會員二十名。

十九日 廣島縣神石郡仙養村近田農業補習學校中西益男氏外七名。

二十七日 岡山縣天城中學校教諭中村龜夫氏外十六名。

二十八日 東京天文臺水野良平氏。

同日 英田郡福本小學校訓導青山松太氏外二名。

○九月中の參觀人次の如し。

四日 岡山市同好會員岡野照雄氏外一名。

十三日 鹿兒島市七高天文學會文科委員三浦清治氏。

二十一日 文部省實業學務局商業教育課大刀川利男氏。

二十二日 勝田郡大崎村農業技手福井唯志氏外十六名。

二十三日 岡山縣師範學校專攻科及び講習科生徒九十名。

三十日 都農郡中庄村農業補習學校助教諭新谷千年志氏外五名。

同日 岡山市外大野村婦人會長井上菊太氏外九十名。

岡山支部七月通信

○山本博士を迎ふ。四日午後六時四十七分岡山驛着の上列り列車で、山本博士は

奉天からの歸途來岡され、六日迄岡山及び倉敷の各所で講演された。(天界九月號382頁參照)

○天體觀望。八日山陽高等女學校寄宿舎、十日元島鼎三郎、河内富次郎兩氏宅、十五日金木博治、栗山時政兩氏宅。

○水野幹事の渡道。水野幹事は二十四日岡山出發、同日は京都天文臺を訪ひ、十二時屈折望遠鏡で金星及び土星を觀望、山本博士宅で少憩、同夜京都出發二十五日は富山縣氷見町南川信氏方にて、天文を説き、二十八日札幌驛に北海道支部幹事丹茂幹事外數氏の出迎へを受け、大學學生集會所で開かれた支部歡迎會に臨み、倉敷天文臺の近況を講じ、二十九日から三十一日迄三日間札幌師範學校内で開催された、全國中等學校地理、歴史科教員協議會に出席して、天文趣味を鼓吹し、三十一日夜は支部主催の記念館に於ける講演會で「七夕星のローマンス」といふ題下に講演された。

岡山支部八月通信

○水野幹事の北海道及び樺太周遊。八月一日旭川市に同好會員陸軍歩兵大尉青野重雄氏を訪ひ、二日は網走驛で、同行の教員團五十餘名に仰いで天文談ひ、三日は濃霧の中の月を釧路で賞し、四日には根室で會員測候所長松川哲美、北海道支部幹事米田勝彦兩氏に迎へられ、五日は兩氏の案内で根室を視察し、五日は帶廣、六日は苫小牧、七日は登別温泉、八日は室蘭と各地を視察中に數名の入會々員を紹介し、九日は札幌學生集會所に於て、支部主催の講演會で「流星の話」「星座めぐり」について講演し、十日は小樽新聞社主催の南樺太周遊團に加はり、千歳丸船内で團員百八十餘名の爲めに、「星のローマンス」について講演、十一日は大泊視察、十二日は千歳丸船上で昨年臺灣行の際蓬萊丸の船上で手を握つた天文愛好者大阪高校學生出羽助一氏にめぐりあひ、再び握手その奇遇に驚き、船中にて天文談に花を咲かせ、十三日は豊原に會員野村牧師を訪ひ、十四日は船中にて「宇宙の廣さ」と題し講演して、十五日

小樽港に歸着、團體は解散されたので、同夜小樽出發十六日は盛岡に一泊、十七日は水澤緯度觀測所を山崎技師に案内されて視察し、十八日は東京で東京支部五藤幹事と會見し、十九日歸岡された。

○家庭宣傳。二十二日は元島教師、平野大佐宅、二十四日は仁部文學士、二十六日は木畑教授、二十七日寺野教師、二十九日は毛利教師、三十日は伊藤好良、岩月教師宅。

岡山支部九月通信

○天文繪葉書陳列會。三日關西中學校講堂に京都、東京兩天文臺、水澤緯度觀測所の繪葉書並に天體に關する繪葉書、北海道及び樺太の繪葉書陳列され、水野幹事之れが説明の任に當つた。

○觀月會。支部主催の觀月會を十日第一合同銀行バルコニーで催したところ數百名の來會者があつて、岡山での最大レコードを造つた。土星、木星を觀望し、午後十時盛會裡に閉會した。

○家庭宣傳。三十日藏知矩、黒田克巳、栗山時政三氏宅で行つた。

札幌より(1)

北海道は已に涼味あふる、許りであります。星の美を味ふにばよい折さになりました。靜に星の光を仰ぎながら宇宙の神祕を考へます。橢圓幾何學と一般的相對さを少し許りかちつた私には無終有限の宇宙がよく分ります。併し餘りに現代の自然科學の發達には唯目をみはるより仕方がありません。そして私は科學が何時に成つたら自然現象を支配する單一の法則を見出し得るか、その日の一日も早からんことを希ふものです。然し恐らく其の時は宇宙の滅亡の時ではありませうが、私はだまつて空の一隅を靜にみつめるのです。

昭和二年九月二日夜

父母在はす家にて

米田勝彦

札幌より(2)

拜啓久しく御無沙汰致しました。今春訪臺の折は、色々お世話相掛け、面白い話に時を過しましたが、いつまでも楽しい思ひ出さなりました。先生には東京天文臺の道を詳しくお教へ下さいまして私には非常に幸でした。紙片に書いて下した地圖はごここに仕舞つてあります。私は今夏落石無線に實習に参つて五十五日目に札幌に歸ることが出来ました。落石では天候のわるいため唯一夜の観測きりでした。ペルセウスの流星の色を青くみて居る私は幾分色盲かも知れません。ミラの光度は札幌にかへつた翌晩九月六日夜午後十一時半頃、四・八等と見積り致しました。今度日本一の屈折鏡がきたそうではありますが、來年でも京都に行つてみせて頂きたいと思つて居ります。最後に先生の御健康を祈つて筆を擱きます。

草々

九月九日

米田勝彦

上田先生

新入會員

(昭和二年十一月中旬迄)

- 原 憲〔五藤齊三紹介〕 東京市外西
巢鴨町巢鴨一九六(學生)
川口 富司 同 上〕 同深川區猿
江町五(學生)
久保田謙二〔同 上〕 新潟市東中
通一番町一九六(醫師)
清水 謙三〔内海茂紹介〕 大阪府南河内
郡柏原町太平寺新道(會社員)
富田 誠一〔中村要紹介〕 大阪市港區泉
尾松之町一丁目二(鐵工業)
爲 國二郎〔日下幸男紹介〕 第一艦隊軍
艦日向士官次室(軍人)
信夫塙四郎〔海老澤廉紹介〕 川崎市大師
町荻原方
高 木 亨〔間島勝治紹介〕 京都府福知
山町新町道(學生)
岩崎 莊次〔垂井増太郎紹介〕 同龜岡町
西堅町(訓導)

- 錦織 美喜〔田所元喜紹介〕 高知縣長岡
郡介良村
伊達 芳信〔内海誠之紹介〕 兵庫縣印南
郡伊保村今市(農業)
前田純一郎〔高田三郎紹介〕 神戸市兵庫出
在家町一三(學生)
清水 健雄〔宮川周治紹介〕 長野縣下高
井郡平穩小學校(訓導)
瀬 川 深 竹田新一郎紹介〕 濱松市元
城町一二六(醫師)
服部 良一〔濱野眞紹介〕 名古屋市中區
矢場町一ノ切三一
林 西 柏〔見元了紹介〕 臺中州豐原郡
潭子庄潭子一七〇(商業)
小西外喜雄〔池亮吉紹介〕 金澤市小立野
新町二〇(學生)
原田參太郎〔内海孝夫紹介〕 大分市大分
橋通三丁目(學生)
石田 榮次〔無 紹 介〕 熊本市縣立商
業學校(教諭)
井形 忠男〔同 上〕 徳島市富田裏
仲ノ町二丁目宮崎方(學生)
村地 孝一〔同 上〕 東京市小石川
區西原町一ノ一〇(學生)
以上二十一名

會員諸君に告ぐ

本年五月の總會で會費は歴年度制に變更した結果前金の定めにて明年度の會費は本年末までに徴集します。近く集金郵便を差立ますから御留守中でも差支なき様に豫め御準備を願ひます。尙本年末まで未納の方も可なりありますが之れは加算してありますから是非御拂込下さい。基本金を有さない本會は諸君の會費滞納は直ちに會の興廢に關する重大事ですから相互に自重して愛會の念を高めませう。(竹内)